

要再用

上 6 30 十七

警保局警發乙第三三九號

警保

警保

事務官

文書課長



香川知事宛自答書

警保局長

神表建設局宛

五月十日 附士 保第二三七九 拂標
 記ノ件 仰 照 令ノ 振了 取右 何レモ
 穩當ナラズト 恩料 云々 付取止メルノ
 可レ 依

内務省

理由

一、勲記ハ勲章授與ノ表示ニシテ勲章ト共ニ一体
 ヲ爲スモノニシテ當該人ニ賜リタルモノナレバ之ヲ
 碑ニ刻記シ公衆ニ披見セシムルガ如キハ其ノ
 性質上穩當ナラズト思料ス(賞勲局ト打合濟
 庶務課富安氏)
 一、國旗ハ國家ノ旌表ナルト共ニ國民モ亦之ガ旌
 表ノ使用ガ認めラレ居ル所ナルガ國旗ノ性質



内務省

上総テ國家的意義ヲ有スル場合ニ使用スル
ヲ妥當ト解サレ個人的表示ニハ使用ニ得

ザルモノト思料ス
(内閣官廳外令海
能知事方官及)

香 2

十一保第三三九號

昭和十一年五月十三日

香川縣知事 藤野 惠

警保局
11.5.16土
警 2194 号

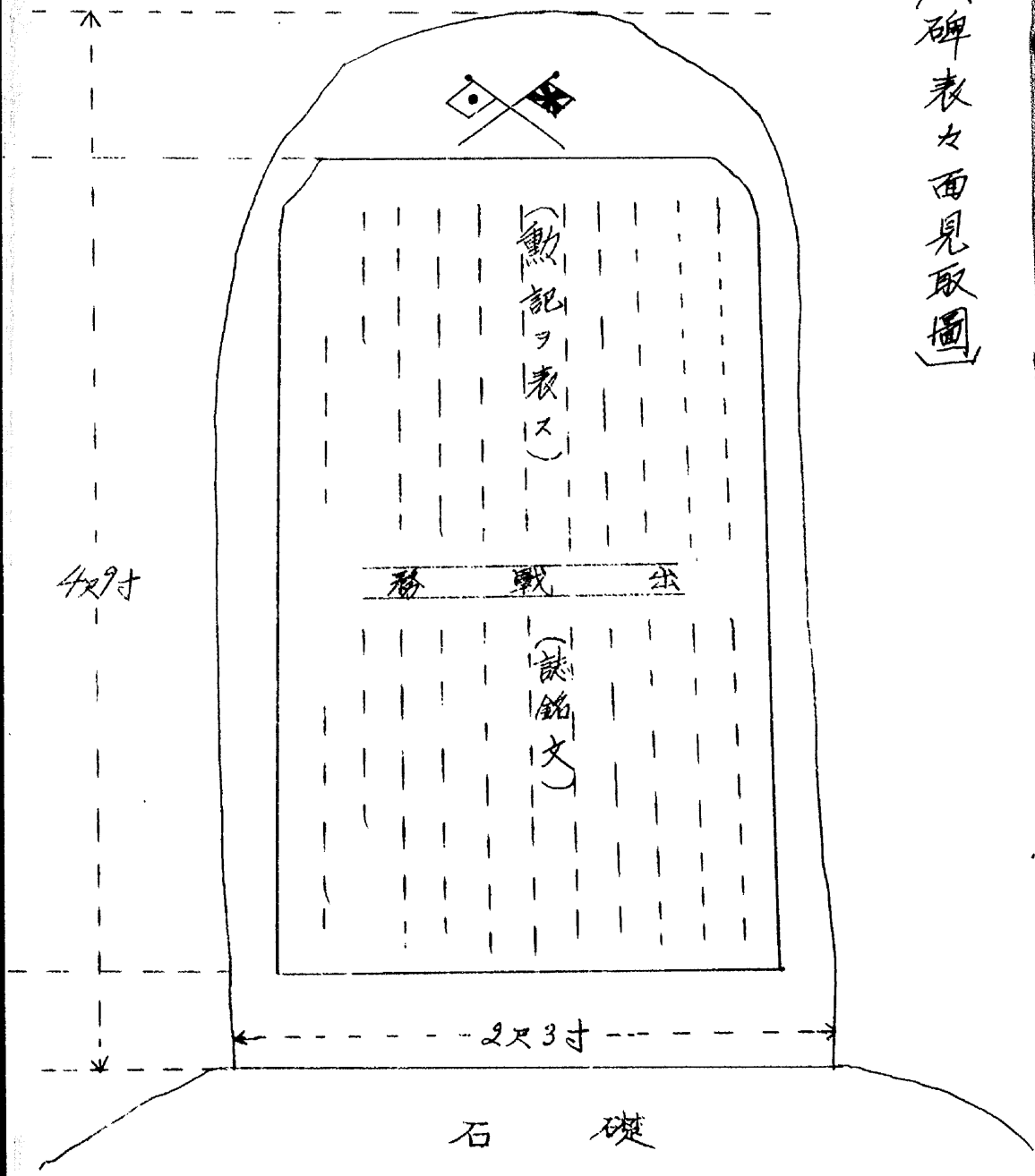
内務省警保局長菅場軍藏殿

碑表建設ニ関スル件

今般管下ニ於テ一私人ヨリ別紙ノ如キ碑表建設願出有之候處大正十三年四月十四日内務省發警第二一號通牒ノ次第ニ有之之ガ許否上左ノ莫ニ関シ聊カ疑義相生シ候條何分ノ御指示相成度及照會候也

記

〔碑表々面見取圖〕



一、碑文ニ勲記ノ全文ヲ表明スルハ皇室ニ關スル文字濫用ノ弊アリ認ムベカラザルモトト恩料セラル、ガ如何

二、碑表面ニ國旗ヲ表明スルハ碑表ガ一人ノモノナルト及一面ニ於テハ國家的、社會的、意味ヲ含マサル碑表ナルニ付之ヲ認メザルヲ適當ト恩料セラル、ガ如何

追而本件ハ差迫リタル事案ニ付至急御回示相仰度申添候

以上

國費

(右側面)

大正十三年ヨリ昭和元年迄三年間高松地方裁判所ヨリ小作調停委員ニ任セラル
鶴身熊太郎之墓
妻かね

一尺四寸

(註) 鶴身熊太郎ハ現存人物ニシテ往時農民組合ノ幹部タリシノ
又今人ノ墓標(所謂生々墓)ノ如ク装ヒ誌銘傳贊ノ文章ヲ表ハシタルノ

(構造其他)

建設場所 村道ニ面セル共同墓地
又材料 礎石ハ砂礫ヲ以テ固メ上部ニ花崗岩ヲ建ツ

(表面碑文寫(上段分))

天佑ヲ保有三萬世一系ノ帝祚ヲ踐タル
日本國皇帝ハ賞勳局ニ勅命シ陸軍
歩兵一等卒鶴身熊太郎ヲ明治勳章ノ
勳八等ニ叙シ白色桐葉章ヲ授與ス即チ
此位ニ屬スル禮遇及ヒ特權ヲ有セシム
神武天皇即位紀元二千五百六十六年

昭和三年九月四月一日

賞勳局總裁從二位勳一等子爵 大給 恒
共ノ證ヲ勅查ス第壹万四千五百五十四號ヲ以テ
勳等依母ニ記入ス
賞勳局書記官從四位勳三等 横田香苗
賞勳局書記官正六位勳五等 藤井善吉

明治三十一年十月三日土匪征伐ト予台南出發瑞崎在大埔
 王爺宮東方高地砲坑在西北方高地ニ於テ發關同十九日
 討伐瑞崎營同年十月十八日第二次討伐ト予台南出發
 發同十九日蕃寮ニ着同二十日同地出發瑞崎砲坑ニ向テ前
 進同二十八日飯南
 明治三十一年十月十二日ヨリ同十五日ニ至ル三塊石山孤家子長
 山領子附近ニ於テ戰關今三十一年三月一日ヨリ同十五日ニ至
 ル奉天附近ノ合戰ニ參與ス
 陸軍步兵一等卒 勳八等 鶴身 德吉 叩

十 十 二十

石州知事 炎面 各案

學保

學保

事修 官

石州知事 炎面 各案

學保 局長

碑表建設 周ニ件